

今月のトピック

43年間の複十字病院の仕事を終えて

名誉院長 尾形 正方

9月30日外来を終えて急いで講堂に到着したのが丁度5時半でした。大田院長先生のご挨拶に続き、各部署の方から送別の辞と、多くの記念品を頂戴いたしました。9月末になると多くの方から労いの言葉をかけられて少しずつ退職を実感してきました。頂いたPHOTO FRAMEの皆さまの声を聴き胸に溢れてくるものを抑えることが出来ませんでした。

私が清瀬に来るようになったきっかけは、当時の結核研究所附属病院の小林院長がマリアンナ医大の外科にみえて、結核専門病院を一般病院に転換するので手伝ってくれとのことでした。その時一緒に御出でになった方が杏林大学外科教授相馬先生でした。

1977年10月に初めて清瀬に来ましたが、現在の本館が完成して1年ほどした時でした。その時は末だ木造平屋の結核病棟が2棟あり、大気安静型の療養所の雰囲気を残していました。

消化器は本館3A病棟に間借りする格好でスタートし、聖マリアンナ医大の消化器内科、東大医科学研究所の外科と杏林大学外科からドクターを派遣し助けて頂きました。

10年以上頑張ったところで1989年に現在の中央外来棟、内視鏡検査室、放射線棟と、1C、2C、病棟を建てて頂き、整形外科、乳腺科、神経内科と診療科がふえるにつれて、1997年に南館、新外来棟、健康管理センターが完成し、ほぼ今の形が出来上がったと云えます。横に広がってしまった施設を1か所に集めて新館建築することはかなり困難な事業です。大田先生にご苦労をおかけ致しますが宜しくお願い致します。“あかれんが”を見ていると私が院長の頃は、院内の体制整備で精一杯でしたが、その後内部体制が充実し、その結果地域に関する情報が多くなってきているように思います。地域の先生方のご協力のもとに、複十字病院の今後の益々の発展を祈っています。



緩和ケア病棟開設

緩和ケア病棟長 宮崎 聡

緩和ケアチームとして14年間、患者さんに携わって様々なことを勉強させて頂き、その集大成として緩和ケア病棟の舵取りに名乗りを上げさせて頂きました。

私が思い描く緩和ケア病棟は、患者さんの尊厳を守り、可能な限り自然のまま時間の船に乗せていくホスピタリティの仕事、また症状緩和などの支持療法での一時退院や自宅へ帰る患者さんを増やす仕事の両立です。

当院の緩和ケア病棟の方式は、一般病棟からの転棟患者さんはそのまま主治医が診る主治医制及び、院外からの受け入れ患者さんの主治医は私となる、2つの方式となります。今後難し舵取になると予想されます。

緩和ケア病棟のスタッフの方々はもちろんのこと、一般病棟のスタッフの方々の御協力、力添えが必要です。ご協力の程をよろしくお願いたします。

登録医紹介

医療法人社団 佑友会 ひばりヶ丘診療所

住所 〒203-0021
東京都東久留米市学園町2-11-14

電話 042-421-0973

診療科 内科・胃腸科・小児科・経鼻内視鏡

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	
15:30~18:30	○	○	○		○		

休診日) 木曜午後、日曜祝日

こんにちは。ひばりヶ丘診療所の熊野です。先代の先生から40年近くにわたり、ひばりが丘団地の近くで内科・胃腸科・小児科を標榜し地域医療に携わっております。昭和34年に建設されたひばりが丘団地は、私が引き継いだ頃（2002年）は老朽化が進み、住人も高齢者ばかりでした。それから20年近く経ち、団地は新しく生まれ変わり、マンションや近くにイオンモールもできたため、若いファミリー層が増え、活気のある街に変わりました。乳幼児から高齢者まであらゆる世代の方が当診療所を利用され、日々、真面目に明るく診察を行っています。私自身は大学病院時代から消化器疾患を専門として研鑽を積んできており、胃カメラや腹部超音波などによる消化器系疾患の診断に力を入れております。ご存じのように、死亡の原因で一番多いのがんです。高齢化により今後がんは増えていきますが、その中でも胃がんや肝臓がんはその発生を防ぐことができるがんなのです。胃がんはピロリ菌の除菌により、肝臓がんはB型肝炎、C型肝炎ウイルスの治療により、多くの患者さんががんの発生を予防し、また早期に発見ができるのです。ひばりヶ丘診療所では生活習慣病の予防や治療、乳幼児のかげなどの診察、そして消化器がんの早期発見のために力を入れております。

話は変わりますが、2020年8月より東久留米市医師会会長を拝命しました。東久留米市医師会は会員数84名と小さな医師会ですが、地域医療に真面目に取り組んでいる先生ばかりです。医師会として、がん健診や特定健診、予防接種、在宅医療などの活動をしています。そして医師会独自のユニークな活動として①おたふくかぜ予防接種②COPD健診③FMひがしくるめでの医療番組の提供を行っています。また、新型コロナウイルスについても市内医療機関で唾液PCR検査を行っています。複十字病院には日頃から多くの東久留米市市民が外来、検査、入院などで利用するとともに、東久留米市乳がん検診や幼児BCG接種などで大変お世話になっております。FMひがしくるめの番組にも多数の先生が出演され、市民のために病気や治療についてお話をしていただき、感謝をしております。今後も病診連携、病病連携など、地域医療のために協力をお願いしたいと考えております。



結核予防会のザンビアでの活動

国際部業務課主任 後藤 眞喜子

ザンビアはアフリカ大陸の南に位置する気候の良い国です。WHO（世界保健機関）の指定する結核高蔓延国のひとつでHIVとの合併割合も高く、いまだ多くの人々の命が結核によって奪われています。結核予防会は2008年にザンビア国ルサカ市に結核予防会ザンビア事務所（駐在員2名、現地職員7名）を設立し、10年以上にわたって支援を続けてきました。

2019年3月からは外務省NGO連携無償資金及び複十字シール募金の支援を得て「ルサカ郡における結核の包括的予防・管理能力強化プロジェクト」を実施しています。これまで整備されていなかったレントゲン機材を現地の保健所へ供与し、供与から3か月で57名の結核患者を診断、治療につなげました。また、日本から専門家を派遣して、現地の医療従事者に対する臨床検査技術やX線読影技術の研修を実施しました。電力不足で停電が頻発する状況でも皆熱心に学んでいます。ザンビアは医療従事者が少ないため、保健分野で活躍するボランティアも育成しています。ボランティアは結核やHIVに関する知識を学び、JATAのロゴを付けたお揃いのTシャツを着て地域住民への普及啓発活動を行い、患者さんを家庭訪問して治療の継続をサポートするなどの様々な支援活動をしています。



結核予防会ザンビア事務所のスタッフ

今年はザンビアでも新型コロナウイルスが流行し、4月からザンビア事務所の活動は一部中断を余儀なくされていました。その間に感染を恐れて受診を控える結核患者さんが増え、治療の継続も危ぶまれるなど結核対策の遅れが懸念されています。7月ごろから社会経済活動が徐々に再開されたので、保健省の指針に従い、感染予防措置を取りながら現地の保健局と協力して衛生用品の供与やオンラインによる技術研修の実施、ボランティアによる戸別訪問による普及啓発など活動を徐々に再開しています。これからもザンビアの結核対策推進に貢献できるように活動していきたいと思います。



結核ボランティアによる戸別訪問の様子

喘息・COPD外来の開始に当たって

大田 健

喘息の病態に慢性の気道炎症の存在が解明される前は、出現した喘息症状を緩解させることが治療の目標でした。しかし、慢性の気道炎症が証明され、吸入ステロイド薬（ICS）の有効性が証明されてからは、喘息症状や薬の副作用がなく健常人と同様の日常生活を送れることが目標となりました。そして、有効性の高い治療が普及すると同時に、通常の治療ではコントロールできない難治性喘息の存在が明らかになり喘息の分野で残されている大きな課題です。私はこれまでにわが国の喘息予防・管理ガイドラインと国際ガイドラインの作成に10年以上携わって参りました。また、タバコが原因で発症するCOPDのガイドラインにも参画して参りました。そこで、これまでの経験を活かし、通常の治療内容でコントロールが困難な患者さんの状態を改善することにすこしでも貢献したいと考え、外来を明確に表現することに致しました。難治性と診断するためのアルゴリズムの提唱、難治化をもたらす合併症を含む悪化因子とその対応などを総合的に整理し、また治療アドヒアランスや吸入手技のチェックや合併症として頻度の高い鼻炎や喫煙者におけるCOPDのオーバーラップ（ACO）、喘息を伴い鑑別が重要なアレルギー性気管支肺アスペルギルス症（ABPA）や好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）、アスピリンを代表とするNSAIDsにより誘発されるアスピリン喘息、呼吸困難の原因として心不全、気胸、肺血栓栓症などの鑑別も念頭に診察をする所存です。そしてうまく治療が軌道に乗れば、紹介していただいた先生と連携しながら良い状態が維持できるような診察を心がけて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

ふじ わら けい し
藤原 啓司

- 配属先／呼吸器センター
呼吸器内科
- 出身地／茨城県
- 出身大学、卒業年／
秋田大学
2013年卒

▶大学卒業後の主な経歴

筑波メディカルセンター病院で初期研修終了後、筑波メディカルセンター病院呼吸器内科で後期研修。以後、筑波大学附属病院、筑波記念病院で勤務。

▶専門医・認定医資格

日本内科学会認定内科医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、インфекションコントロールドクター（ICD）、日本結核病学会結核・抗酸菌認定医

▶趣味及び特技

旅行

▶患者さんへのメッセージ

患者さんに寄り添った医療を心がけています。よろしくお願い申し上げます。

やま ぐち ゆう し
山口 祐司

- 配属先／糖尿病・生活習慣病センター
- 出身地／神奈川県
- 出身大学、卒業年／
日本医科大学医学部医学科
2011年卒

▶大学卒業後の主な経歴

日本医科大学付属病院で研修後、日本医科大学付属病院糖尿病・内分泌代謝内科勤務

▶専門医・認定医資格

日本内科学会認定内科医・指導医、日本糖尿病学会糖尿病専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医、日本医師会認定産業医、臨床研修指導医

▶趣味及び特技

ジョギング、珠算

▶患者さんへのメッセージ

糖尿病や脂質異常症など生活習慣病の診療を通じて、地域の皆様の健康をサポート出来ればと考えております。また、甲状腺などの内分泌疾患も診療させて頂きます。宜しくお願い致します。

あ べ えり こ
阿部 恵里子

- 配属先／糖尿病・生活習慣病センター
- 出身地／山形県
- 出身大学、卒業年／
岩手医科大学
2017年卒

▶大学卒業後の主な経歴

日本医科大学千葉北総病院で研修。その後、日本医科大学付属病院糖尿病・内分泌代謝内科に入室・勤務。

▶趣味及び特技

旅行

▶患者さんへのメッセージ

患者さんの生活習慣を一緒に見直ししながら、より良い治療を見つけていくことを心がけています。宜しくお願い致します。



複十字病院は
公益財団法人結核予防会の病院です

予約・紹介のご案内

■受付時間

平日 8:30~17:00 土曜日 8:30~12:00

■医療機関・紹介状をお持ちの患者さんのご予約

電話 042-491-9128

FAX 042-491-3553

■再診・初診（紹介状なし）のご予約

電話 042-491-6228

複十字病院

〒204-8522 東京都清瀬市松山3-1-24

代表電話 042-491-4111

代表FAX 042-492-4765

交通のご案内

■電車でお越しの方

・西武池袋線『清瀬駅南口』より徒歩12分

または、バス『南口2番乗り場』より3つ目『複十字病院前』下車

・JR中央線 武蔵小金井駅より『清瀬駅南口ゆき』バス『保育園入口』下車
バス停より徒歩5分

■お車でお越しの方

・小金井街道『清瀬高校入口』信号を曲がり 西に300メートル

・所沢街道『全生園東』信号を曲がり病院通りを東北に2キロメートル